

〔畜産農家の声〕

鶏と高校生活

岡山市北区高松原古才

岡山県立高松農業高等学校

○はじめに

岡山県立高松農業高等学校は、平成 23 年 4 月に創立 113 周年を迎えた歴史と伝統のある高校です。5つの学科がある中で、畜産科学科では1学年 40 人の生徒が、1年生では酪農・養豚・養鶏・実験動物について学び、2年生から専攻に分かれます。

今回は、畜産科学科養鶏専攻を担当される藤井先生と生徒の皆さんにお話を伺いました。

○学校の鶏について

採卵鶏（ボリスブラウン）の成鶏 1500 羽、大雛 200 羽、幼雛 200 羽を飼育しています。夏休みなどの長期休暇も、生徒の皆さんが当番できちんと飼育管理を行っています。



＜卵を洗卵機にセットする＞

○養鶏専攻について

養鶏専攻では、採卵鶏や特用鶏などの飼育管理や、鶏のくん製・プリンの製造などを学んでいます。平成 23 年 4 月現在、2年生 9 人、3年生 8 人が在籍しています。

週 3 回の実習では、主に鶏の一般的な管理について勉強しています。「何が一番好きな作業ですか？」との質問に、「ふん取りです」と答えてくれた生徒がいて、どんな作業でも、鶏への愛情を持って一生懸命やっている様子がうかがえました。



＜卵が規格別に出てくる＞

鶏の飼養管理から、洗卵、パック詰めまで全ての過程を生徒自らが行います。

卵を洗卵する過程を見学させていただきましたが、生徒の皆さんは、慣れた手付きで卵を機械にセットした後、洗われて規格別に出てきた卵をトレイに回収してしまし

た。パック詰めされた卵は、高校近くの「味彩館Aコープたかまつ」へ出荷しています。

畜産科学科の生徒は、1年生の時1人1羽、鶏を雛から育てる実習があります。その実習がきっかけで鶏や卵に興味を持ち、養鶏を専攻した生徒が多いようです。

また、鶏から生産された卵は、肉や牛乳とは違って生産者自ら販売できるため、消費者との距離が近いことに魅力を感じた、と話してくれた生徒もいました。



＜出てきた卵をトレーに回収する＞

○課題研究について

3年生では、1人が1課題の課題研究に取り組みます。

平成22年8月11日に行われた日本学校農業クラブ中国大会では、畜産科学科の生徒の発表が最優秀賞を受賞し、11月に北海道で開かれた全国大会に、中国ブロック代表として出場しました。

平成23年3月に卒業した3年生中心で取り組んだプロジェクトで、市販飼料に県内産の飼料米を混ぜることで鶏の飼料自給率を高め、高品質な卵の生産に成功したという発表でした。

きっかけは、鶏の飼料自給率を向上させるため、オリジナルの飼料を作ることでした。まず、井笠普及センターに相談し、笠岡産の飼料米を分けてもらって試験がスタートしました。飼料米の添加割合は、試行

錯誤しながら検討していきました。

また、オリジナルの飼料に加えて、止まり木や砂場のある「福祉ケージ」を用いて飼育し、通常飼育と比較した効果を検討しました。その結果、産卵率が向上し、卵重が重くなったとのことでした。

残念ながら、この試験で鶏が産んだ卵は食べていないとのことでしたが、鶏にとって快適な環境の中で、大切に育てられた鶏が産んだ卵は、ひと味違うような気がしました。

現在の3年生の課題は、鶏の卵に関する研究や、ボリスブラウンと烏骨鶏の人工授精に関する研究などだそうです。

また、2年生の全体プロジェクトでは、汚水の処理過程の中で、風力とソーラー発電を動力源として、リン酸肥料を回収するという試験をしているそうです。



＜手作業でパックに詰め、出荷＞

○最後に・・・

養鶏専攻の卒業生の中には、高校で学んだことを生かして県内の養鶏農場に就職した方もおられるとのこと。現在学んでいる生徒の皆さんとともに、若い力で畜産業界にパワーを与えてくれることを期待しています。(備前県民局 畜産班)

